



福井商工会議所
こち デジタル活用
ビジネス支援センター

北陸技術交流 テクノフェア2022 講演会・セミナーを プレビュー



北陸最大級の総合技術展示会「北陸技術交流テクノフェア2022」は、10月3日(月)よりWeb展示がスタートし、20日(木)・21日(金)には福井県産業会館にてリアル展示が開催されます。会期中は関連イベントとして、独自の経営戦略や技術開発に取り組んでいる企業経営者や研究者による講演会・オンラインセミナーを実施します。今回は登壇する講師やその技術等をご紹介します。

テクノフェア2022 記念講演会

人間ロボット共生社会の未来

講師

ロボット学者・大阪大学教授

石黒 浩 氏



石黒教授は、2025年大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーも務めています。

石黒教授は、人間に酷似したロボット(アンドロイド)研究の第一人者として活躍されています。昨今のコロナ禍により、アバター(分身)

を活用した働き方も注目されるようになりました。石黒教授が目指しているのは、遠く離れた場所にいる人さらには高齢者や障がいを持った人でも、アバター技術の力であたかもその場にいるように対話・交流ができる、人間とアバターが共生する社会の実現です。

テクノフェア2022
オンラインセミナー
「ワークロイド」のバイオニアが語る、
ロボット社会の展望

講師
(株)テムザック 代表取締役議長
高本 陽一 氏



オープンイノベーション戦略で事業を發展させ、2020年に会長職にあたる議長に就任されました。



石黒教授(左)が開発した、本人にそっくりのアンドロイド「ジェミノイド」。このロボットを自身の分身として実際に海外へと送り、遠隔操作で講演を行うことに成功しています。

ロボット・アバター技術を活用する機運は年々高まっています。本講演会は将来的に訪れる人間とロボットとの共生社会に対し、地方の中小企業がどのように向き合うべきか、考える貴重な機会となります。

レーター等を開発し、多岐にわたる分野で人間の危険や負担が大きい作業をサポートしています。



同社が開発した「RODEM」は、ロボット、モビリティ(乗り物)、車いすとしての役割を1台で果たす次世代型スマートモビリティ。テクノフェア2022の会場でも見学できます。

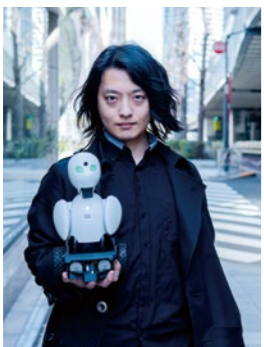
セミナーでは、家業からロボット産業という新市場に挑戦した経緯と、「ワークロイド」が日本の社会に実装されるために必要なことは何か、ロボット産業の先駆者の目線から紹介いただきます。

もう一つの身体を手に入れる。
「分身ロボット」テクノロジー

講師

(株)オリイ研究所 所長

吉藤 オリイ 氏



吉藤所長は早稲田大学で分身ロボットの研究開発に励み、2012年に同社を設立しました。

オリイ研究所(東京都)の吉藤所



2021年には、東京都日本橋に分身ロボットカフェを開店させるなど、「OriHime」をはじめとしたコミュニケーションテクノロジーの実用化を進めています。

長は子どもの頃に引きこもりを経験したこともあり、「孤独の解消」を研究テーマにしてみました。研究の末に開発した分身ロボット「OriHime」は、寝たきりの状態であっても指先や目の動きだけで操作することができ、テクノロジの力を持つて、心身に深い傷を負い、働きたくても働くことができない方の社会参加・復帰をサポートしています。

吉藤所長からは、コミュニケーションテクノロジの発展にかけ熱い思いが語られます。多様な働き方・生き方を認めるダイバーシティ社会を実現するために必要なことは何か、研究者であり経営者でもある吉藤所長の考えをお聞きます。

中小企業だって脱炭素対応、

生産性向上を実現できる！

講師

旭鉄工(株) 代表取締役

木村 哲也 氏



トヨタ自動車で21年勤務した後、2016年に旭鉄工(株)の社長に就任。自らIoTシステムの開発に乗り出しました。

自動車部品メーカーの旭鉄工(愛知県)は、IoTを用いた改善活動により年4億円の労務費と22%の電力消費量の削減を実現しました。コストダウンと脱炭素対応を同時に推進するという成果を上げましたが、これにはIoTシステムそのものに加え、社員のモチベーション向上の工夫やデータを活用する社内の仕組みづくりが必要だと木村社長は考えています。

本セミナーでは、旭鉄工が実践しているデータ活用のノウハウや脱炭素対応を含め、中小企業がDXを成功させるヒントが得られます。

テクノフェア2022 記念講演会「人間ロボット共生社会の未来」
10.20 ⑩ 13:30 ~ 15:00 講師 / 石黒浩氏 会場 / 福井県生活学習館(オンライン視聴も可)

テクノフェア2022 オンラインセミナー
10.3 ⑧ 14:30 ~ 15:30 「ワークロイド」のバイオニアが語る、ロボット社会の展望
10.7 ⑨ 14:00 ~ 15:00 もう一つの身体を手に入れる。「分身ロボット」テクノロジー
10.14 ⑬ 13:30 ~ 14:30 中小企業だって脱炭素対応、生産性向上を実現できる！
~楽しく競争力を向上するIoT活用術~

【お問合せ先 技術交流テクノフェア実行委員会】
(福井商工会議所 まちづくり・産業振興課) TEL : 0776-33-8252
講演会・オンラインセミナーの詳細やお申し込みはコチラ➡



同社の改善ノウハウを全国に展開するため、2016年にi Smart Technologies(株)を設立。IoT機器「iXacs」はテクノフェア2022に展示されます。

テムザック(京都府)は人手不足解消や危険な仕事を担うロボット「ワークロイド」を開発しています。高本議長は、家業のコンベヤーメーカーを継いだ後、「オリジナル製品を持ちたい」という思いから技術者の採用を増やし、食品工場などの製造ライン設計・運営事業を成功させました。自社で培った技術力をPRするため受付ロボットを開発したことが契機となり、2000年にテムザックを起業、「ワークロイド」開発の先駆者となりました。災害救助ロボや医療従事者の臨床実習シミュ